

<p>平成 26 年 2 月 25 日</p>	<h1>病害虫発生予報</h1> <h2>3 月号</h2>	<p>茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会</p>
-----------------------------	--------------------------------	--------------------------------

農薬は使用者が責任をもって使いましょう。

～うっかりミスにご用心！使い慣れた農薬でも、使用前にラベルを確認！～

＜ 目 次 ＞

<h2>I. 今月の予報</h2>	
<p>【注意すべき病害虫】</p>	
<p>イチゴ：うどんこ病，ハダニ類・・・・・・・・・・・・・・・・</p>	<p>1</p>
<p>促成ピーマン：アザミウマ類・・・・・・・・・・・・・・・・</p>	<p>2</p>
<p>施設野菜（促成キュウリ・イチゴ・促成トマト）：灰色かび病・・・・・・・・</p>	<p>2</p>
<p>【その他の病害虫】・・・・・・・・・・・・・・・・</p>	
<p>促成ピーマン，促成キュウリ，春ハクサイ，春レタス</p>	<p>3</p>
<h2>II. 今月の気象予報</h2>	
<p>本文に記載されている薬剤は平成 26 年 2 月 12 日現在のものです。 最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm) で確認することができます。</p>	
<p>詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病害虫防除所 Tel : 029-227-2445 予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/</p>	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、発病株率は平年並(本年値 2.7%, 平年値 2.2%), 発生地点率は平年よりやや低い(本年値 11%, 平年値 23%)。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため、できるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いてローテーション散布する。
- ④ 発病の予防には、硫黄くん煙剤処理が省力的で有効である。
- ⑤ ミツバチや天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。
- ⑥ 薬剤によっては、果実が汚れる場合があるので、十分注意する。

2. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、寄生葉率(本年値 31.4%, 平年値 9.4%), 被害葉率(本年値 37.1%, 平年値 9.5%), 被害葉の発生地点率(本年値 78%, 平年値 47%)は、いずれも平年より高い。
- ② 今後、気温の上昇に伴い、ハダニ類の活動が活発になるため、被害がさらに増加すると考えられる。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。なお、薬剤は古い下葉を除去してから散布すると、薬液が葉裏にもかかりやすくなり効果的である。
- ③ 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、気門封鎖剤を除き同一系統・同一薬剤の連用を避ける。
- ④ ミツバチや天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

(平成 26 年 2 月 25 日発表 病害虫発生予察注意報第 2 号参照)

促成ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、寄生花率（本年値 62.0%，平年値 28.1%）、発生地点率（本年値 100%，平年値 68%）ともに平年より高い。
- ② 2月下旬現在、ヒラズハナアザミウマ、ミカンキイロアザミウマによる被害果率は平年よりやや高い（本年値 0.3%，平年値 0.1%）。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。また、各種ウイルス病を媒介するので注意する。
- ② 薬剤は、薬液が花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる系統の薬剤を用いてローテーション散布する。
- ③ 天敵を使用している場合は、薬剤の影響に十分注意する。

施設野菜（促成キュウリ・イチゴ・促成トマト）

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い(促成キュウリ)	県下全域
	平年並 (イチゴ・促成トマト)	

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在、促成キュウリにおける発生量は平年よりやや多く、イチゴ、促成トマトにおける発生量は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハウス内が多湿になると発生が助長されるので、換気、送風、暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 花落ちが悪い花卉や、罹病部は早急に取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。
- ③ 発生が多くなると防除が困難になるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が乾きにくくなる午後からは行わず、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続く薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。
- ⑤ 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で、丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いてローテーション散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	予報内容	発生概況及び注意すべき事項
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
促成キュウリ	褐斑病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
	ミカンキイロ アザミウマ		
春ハクサイ	べと病	発生量：平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。
春レタス	腐敗病	発生量：平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。
	菌核病	発生量：平年並 ～やや少ない	2月下旬現在，平年並～やや少ない発生である。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 2月22日から3月21日)

気象庁 (2月21日 発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	40	30
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。

<1週目の予報> 2月22日(土曜日)から2月28日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<2週目の予報> 3月1日(土曜日)から3月7日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

<3週目から4週目の予報> 3月8日(土曜日)から3月21日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より低い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。